

お世話になりました・・・

2月に入って間もないある日の午後でした。

7号棟南側の庭に、見なれない老婦人が30分くらい行ったり来たりしているところを住民の方が発見しました。

その老婦人は、1階のベランダを木の枝で“トントン”としながら何かを探している風情でした。7号棟の島崎さんと安藤さんがその老婦人に「どこから来てどこへ行くの？」と聞いてみましたが「・・・？」

その後、疲れている様子でしたので管理組合へ来ました。

お茶を飲みながら雑談をする中で、名前が〇〇さんという事がわかりました。

多摩川住宅便覧を開いて調べてみましたが、一向にわかりません。

お菓子などをつまみながら雑談を重ねていくうちに、多摩川住宅外の人らしいことがわかってきました。

「おばあちゃん、どこかで運動とかしてる？」と聞いてみたら、手を動かしたりしたので、近隣の施設などに問い合わせ、最後に【ときわぎ国領】に心あたりはないか、電話で照会しました。

「〇〇さんという人が通所をしているということはありませんか？」

「ちょっとお待ち下さい」

「・・・」

「・・・はい、います。最近通所サービスを利用するようになった人です」

やれやれ・・・ホッ！

自分の身元が判明したことで安心したのか、老婦人は急にいろいろな事を話せるようになりました。

老婦人は

《82歳。国領7丁目に孫と住んでいる。猫を2匹飼っています・・・》

この言葉が出てくるまでに、1時間以上が経っていました。

【ときわぎ国領】から伊藤さんが迎えに来てくれるまで、老婦人は“ニコニコ”と雑談に応じてくれるようになりました。

所在が判明するまでに、ホ号棟内で係わった人は6人でした。

知恵を絞ってやっと安全は確保されました。

これから高齢化が予想されるホ号棟も、他人ごとではありません。

「みまもつと」制度の、ホ号棟としての活用方法を、具体的に
創り上げていかなければ・・・と考えた一日でした。



〔 写真はお迎えに来た【ときわぎ国領】の伊藤さんと、
安心をしたおばあちゃん 〕

